

る。第3回目の岩手写真連盟展は、第6回東北二科展と会期が重なったこともあって止むなく中止となった。第36回岩手芸術祭は3回目となる中村正也氏に審査員を依頼した。出品者183人、264点。

### 昭和58年

'83 県南カメラクラブ  
交流会・始まる

### (第37回岩手芸術祭)

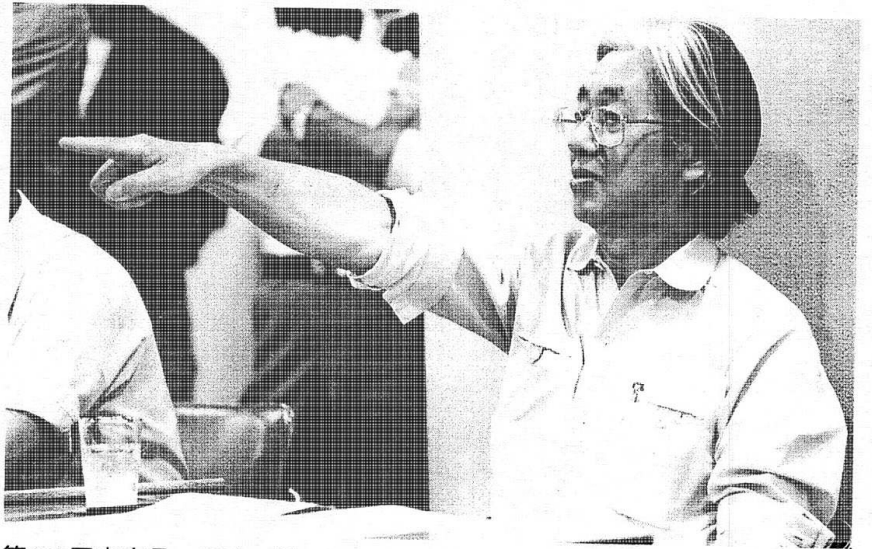
役員は再選、変更無し、前年休んだ岩手県写真連盟展を第3回として開催した。この年に第8回県南カメラクラブ写真研修会が行われている。

これは、連盟の支部的役割を果たすために、県南の活動拠点として設けられたものである。第37回岩手芸術祭には写真家の三木淳氏に依頼した。従来の二期制から一期制に変更され、写真部門は中三デパートとなり、会場が五箇所となって、論議を呼んだ。出品者157人、234点となった。

### 昭和59年(第38回岩手芸術祭)

'84

役員は継続、戦後のアマチュア写真界のリーダーとして活躍した岩手県写真連盟の顧問である川代鶴治氏(70才)が亡くなられた。第38回岩手芸術祭は写真家の上野千鶴子氏を審査員に依頼した。会期が一期生と



第37回審査員 三木 淳

なって2回目。中三デパートが会場の写真部門は、デパートの売出しに重なって、入場料無料でもあったので、前年の三倍の三千人の入場者だった。出品者186名、274点であった。

### 昭和60年(第39回岩手芸術祭)

'85

役員は再選された。連盟展開催の最終日の総会後、富士写真フィルムの伊豆野恭一氏を講師に「昭和58年度富士フォトコンテスト」の入賞作品をもとに研修会を行った。第39回岩手芸術祭は審査員には、写真家東松照明氏に依頼した。この年は、吉丸会長の強い意見で美術部門の九部門全部が一人一点限定の出品に押し切られた。従来、一人一点に限定しているのは書道と洋画の二部門で、他の七部門は二点、あるいはそれ以上でもいいとされていた。吉丸会長の主張する理由は公平を期すことと、会場に制限があるなどの理由であった。写真部門でも三点以内としている。それは搬入、搬出等の受付の事務的問題や、審査時間の限界などで、会場に制限があると云うのは最初から会場割当ての段階で判っていることであり、その会場に併せて入選作品を選抜すればいいので、出品点数制限や規格、サイズなどは各部門の責任で、与えられた条件に合わせて決められるべきものと主張した。この年、会期の一期制による会場の問題を提起している。中三デパートはいろいろな問題で写真部門として不適當であるということからであった。

### 昭和61年(第40回岩手芸術祭)

'86

役員は継続、岩手県写真連盟は昭和62年をもって、創立20周年を迎える。そのことから松本源蔵会長から記念誌の発行について提案があり、協力要請がなされた。第40回岩手芸術祭は審査員に三木淳氏を依頼し